

第107期中間 事業のご報告

株主通信

2016年4月1日～2016年9月30日



株式会社 椿本チエイン

証券コード | 6371

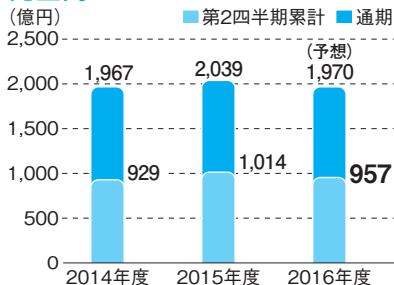
連結決算ハイライト

決算のポイント

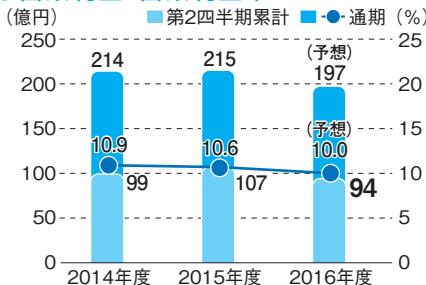
事業環境は堅調に推移したが、円高の影響などにより、前年同期比で減収減益

売上・利益指標

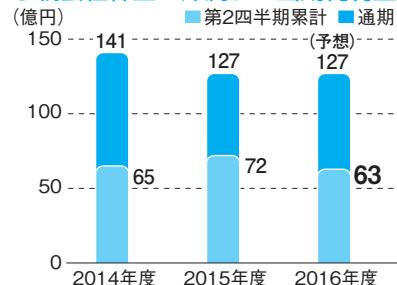
○売上高



○営業利益/営業利益率

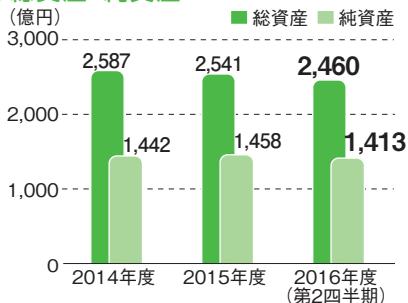


○親会社株主に帰属する当期純利益



資産指標

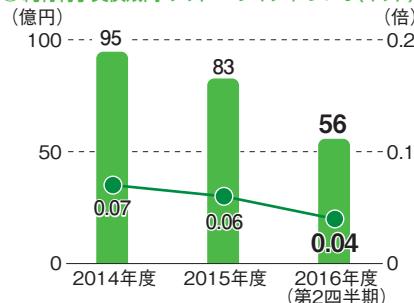
○総資産・純資産



○自己資本比率



○純有利子負債残高/デット・エクイティ・レシオ(ネット)



1株当たり指標

○1株当たり当期純利益



○1株当たり純資産



○1株当たり配当金/配当性向



*記載金額は億円単位での切捨、指標は四捨五入して表示しています。

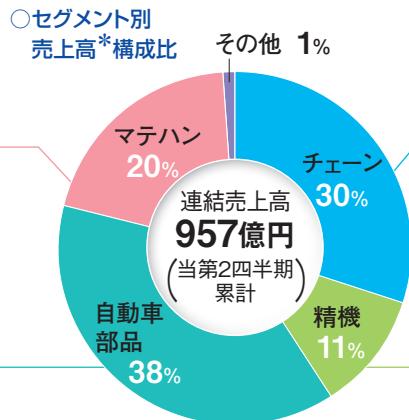
セグメント別の概況

マテハン事業

米国や欧州で金属屑搬送・クーラント処理装置などの売上が増加したが、日本で物流業界向けやライフサイエンス分野向け、自動車業界向けシステムの売上が減少したことなどから、前年同期比で減収。

自動車部品事業

日本では自動車エンジン用タイミングドライブシステムの販売がやや減少したが、海外の全拠点において同商品の販売が好調であったことから、前年同期比で増収。



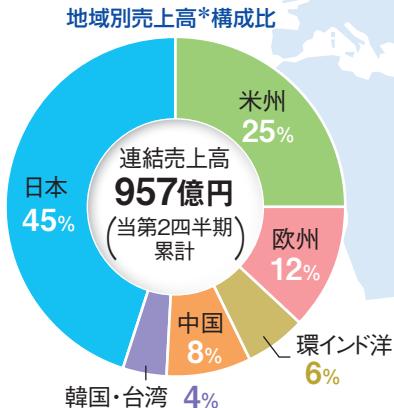
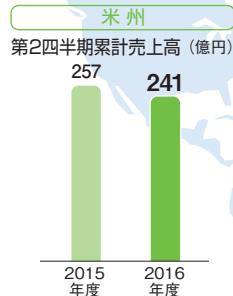
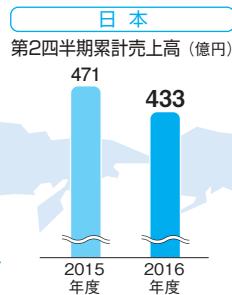
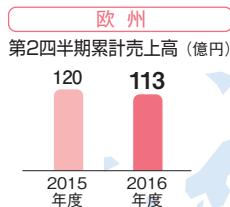
チェーン事業

米州で動力伝動用チェーンの販売が堅調に推移したが、日本で動力伝動用チェーンやケーブル・ホース支持案内装置などの販売が減少したことなどから、前年同期比で減収。

精機事業

日本で直線作動機やクラッチの販売が堅調に推移したが、中国で減速機などの販売が減少したことなどから、前年同期比で減収。

所在地別売上高*



*売上高は「外部顧客に対する売上高」です。

つばきグループの総合力を発揮し、企業価値を高め



代表取締役会長兼CEO **長 勇** (右)
代表取締役社長兼COO **大原 靖** (左)

2016年度上半期の業績について

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2016年度上半期は、売上高957億円、営業利益94億円(営業利益率9.9%)となり、売上高、利益(営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益)において前年同期を下回る結果となりました。

売上高については、事業環境は概ね堅調に推移したものの、円高に伴う為替換算の影響などにより減収となりました。利益については、国内におけるマテハン事業の販売減

少や中国における精機事業の販売減少、また精機事業の工場再編にかかる費用増加などにより、減益となりました。

「中期経営計画2016」 最終年度の進捗

「中期経営計画2016」最終年度の数値目標として連結売上高2,200億円、営業利益220億円を掲げていたが、世界経済や為替の状況を考慮し、2016年度の業績予想を売上高1,970億円、営業利益197億円としました(4ページご参照)。

しかし、「長期ビジョン2020(2020年度)」の数値目標である「連結売上高3,000億円、営業利益率10%、海外売上高比率70%」は不変です。その実行計画「中期経営計画2016」の4つの基本方針に基づく課題の進捗についてご説明いたします。

まず、「マーケット重視の企業文化への転換」については、モノづくり企業として4つの事業セグメントでマーケットニーズを的確にとらえた新商品・新サービスの開発を強化。2017年の創業100周年に向けた新商品を順次発売しています。

「収益力の強化」については、チェーン、自動車部品、マテハンの3事業において世界最適地生産を推進しました。精機事業では国内3工場を2工場に再編し、組織の統合、最新設備の導入などにより大幅な生産性向上に取り組んでいます。

また、「人材の育成と活用」についても、2016年度から「雇用の多様化」と「従業員の働きがい向上」を実現する新たな人事制度を順次導入していくなど、着実に推進しています。

「グループ総合力を生かしたビジネスの拡大」については、4つの事業セグメント間で顧客・技術情報をはじめとした様々な情報を共有し、グループ総合力を発揮することで社会の信

ていきます。

頼、期待に応え続けるとともに、企業価値向上を加速していきます。

2016年度の業績予想について

上半期は期初予想を上回る利益をあげることができましたが、世界経済や為替の状況を考慮した結果、通期連結業績予想を修正いたしました(2016年11月7日公表)。

足下は海外を中心に不透明感が強まっていますが、「長期ビジョン2020」に掲げる「グローバルトップ企業」を目指し、その課題達成にグループ丸となってまい進してまいります。

なお、中間配当金については期初予想通り、1株当たり11円といたしました。年間配当金についても期初予想通りの、1株当たり22円を予定しています。

「創業100周年」、そしてその先へ

つばきグループは、2017年に創業100周年を迎えます。

1917年の創業以来、チェーンの技術をベースにマテリアル(マテリアルハンドリング)、自動車部品、精機へと事業領域を拡大し、グローバル化を進めることにより成長してきました。今後は、持続的成長を図るとともに、事業活動を通じたさらなる社会貢献を果たし、社会から絶対的信頼を得られる真のグローバル企業へと進化していきます。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「長期ビジョン2020」

あるべき姿

グローバルトップ企業

2020年度数値目標(連結)

売上高	営業利益率	海外売上高比率
3,000億円	10%	70%

「中期経営計画2016」

基本方針

- ① マーケット重視の企業文化への転換
- ② グループ総合力を生かしたビジネスの拡大
- ③ 収益力の強化
- ④ 人材の育成と活用

2016年度 数値目標(連結)

売上高	営業利益
2,200億円	220億円

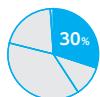
○2016年度 通期連結業績予想と配当予想

		前年度比
売上高	1,970億円	▲ 3.4%
営業利益	197億円	▲ 8.7%
経常利益	195億円	▲ 11.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	127億円	▲ 0.5%
1株当たり配当金	第2四半期末:11円/株 期末:11円/株 年間22円/株(前年度比2円増配)	

*2016年度下半期の主な為替レートは、1米ドル=100円、1ユーロ=110円を前提としております。

*上記予想は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

事業紹介



売上高構成比

チェーン事業

産業用スチールチェーンは世界シェアNo.1*

モノ動くところに「チェーン」あり。国内外のあらゆる産業、用途に応じ、世界シェアNo.1*の産業用スチールチェーンをはじめとした約2万種類の豊富なラインアップから最適なチェーンを最高の品質と最短の納期でお届けしています。

※シェアは当社調べ

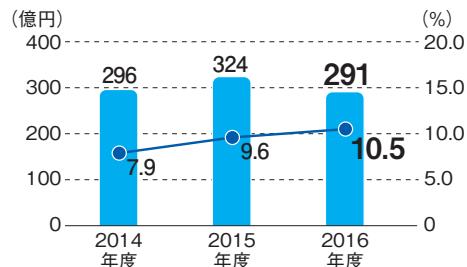


小形コンベヤチェーン



プラスチックトップチェーン

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

動力伝動用チェーン、搬送用チェーン、ケーブル・ホース支持案内装置、一般産業用ベルトなど



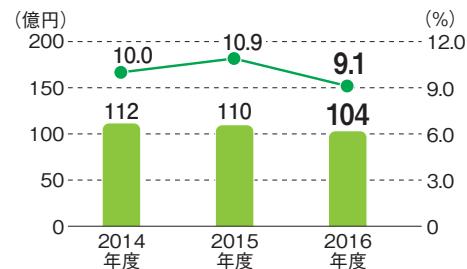
売上高構成比

精機事業

減速機、直線作動機などの豊富な商品群

「Motion & Control」の分野で、独自の複合化技術と豊富な品揃えを生かし、産業機械の複雑な動きを精密にコントロールする精機商品群。エレベータの昇降や立体駐車場、アーケードの屋根開閉、風力発電やスキーリフトなど、日常生活のさまざまなシーンでも活躍しています。

売上高*/営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

減速機・変速機、直線作動機、軸継手、締結具、クラッチなど



減速機・変速機



軸継手(カップリング)



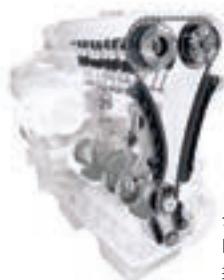
売上高構成比

自動車部品事業 エンジンの高性能化を支えるタイミングチェーンドライブシステム

自動車エンジンの高性能化、エコ化に寄与するタイミングチェーンドライブシステムで、国内70%※、世界35%※とトップシェア。日本、米国、欧州、タイ、中国、韓国、メキシコの7極から供給されるその品質と技術は、世界の自動車メーカーから高い信頼を獲得しています。 ※シェアは当社調べ

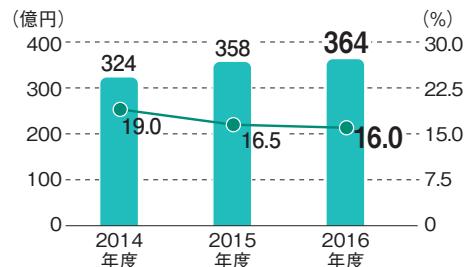


タイミングチェーンドライブシステム部品



タイミングチェーン
ドライブシステム
搭載例

売上高* / 営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

タイミングチェーン、チェーンテンショナ、ガイド、レバー、スプロケットなど



売上高構成比

マテハン事業 生産性向上に寄与するソリューションを提供

宅配便の集配センター向け自動仕分けシステム、ライフサイエンス分野向け保管システムのほか、自動車製造工場向けの車体搬送設備、セメントなどの粉粒体搬送装置や工作機械向けの金属屑搬送・クーラント処理装置など、お客様の生産性向上に寄与する高度なソリューションを提供しています。

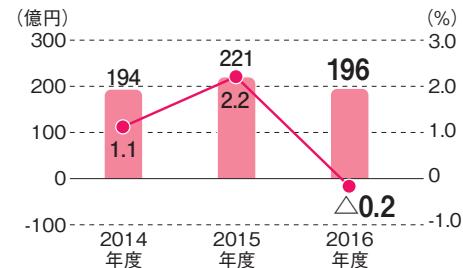


ライフサイエンス分野向けシステム



自動仕分け機(クイックソート®)

売上高* / 営業利益率(第2四半期累計)



主要商品

自動車製造工場向けシステム、物流業界向けシステム、粉粒体搬送装置など

*売上高には「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。



生産拠点の拡充で
さらなる成長を目指す

中国

「世界のつばき」第3弾は、世界屈指の巨大マーケットを有する「中国」を紹介。2014年の地域セグメント見直しにより、それまで「アジア・オセアニア」にメントとしました。

Keyword

歴史

1990年代より中国市場に

1990年代、当社は輸出・調達・製造の拠点として中国市場に着目し、本格的な調査を開始。1995年、当社グループ初の中国拠点として粉粒体搬送装置の合弁子会社「天津樁本輸送機械有限公司」を設立しました。

2004年には、「樁本鏈条貿易(上海)有限公司」(現「樁

Keyword

モノづくり

モノづくり拠点の拡充

2004年に自動車部品の製造販売子会社「樁本汽車発動機(上海)有限公司」、精機商品の製造販売子会社「樁艾黙生機械(上海)有限公司」(現「樁本誼美機械(上海)有限公司」)を設立しました。

そして2012年、中国市場における搬送用チェーンの販売拡大をねらいに、「樁本鏈条(天津)有限公司」を設立。現地での生産供給体制を構築しました。同社はその後、急増する自動車部品の生産に対応するため、第2工

Keyword

エンジニアリング力

エンジニアリング力の強化

中国市場で事業拡大を図るには、現地ニーズに合致したサービス・商品のタイムリーな供給が不可欠です。このため、現地におけるモノづくりの強化に加え、エンジニアリング力強化を目指し、チェーン、自動車部品、マテハンのエンジニアリング部門を統合、2015年に「樁本科技(上海)有限公司」を設立しました。

介します。
分類されていた地域を細分化し、「中国」を単独の地域セグ

進出

本鏈条(上海)有限公司」を設立。
中国における販売の中核を担う同
社は、チェーン・精機商品、マテハン
商品の販売拡大に注力しています。



天津椿本輸送機械有限公司

場として自動車部品製造工場を建
設。2015年より稼働しています。

また、スプロケットビジネスのグ
ローバル競争力強化に向けて、合
弁子会社「椿凱動力伝輸機械(石
家庄)有限公司」を設立(2014
年)するなど、現地でのモノづくりを強化しています。



大形コンベヤチェーン

中国の景気減速などにより、連結売上高に占める割合は7.5
%(2015年度)ですが、グループ総合力とエンジニアリング力
を武器とした顧客とのリレーション強化により、最適なソリュー
ションを提供することで、売上の拡大、収益性の向上を図って
いきます。

つばきグループの中国製造・販売拠点



椿本鏈条(天津)有限公司



椿本鏈条(天津)有限公司
第2工場



椿凱動力伝輸機械
(石家庄)有限公司



椿本汽車發動機(上海)
有限公司



椿本誼美機械(上海)
有限公司

トピックス

Topic

1

創業100周年モデル「G8」シリーズ発売

2015年6月より順次発売している100周年モデル「G8」シリーズ。2016年6月に標準タイプの「RS[®]ローラチェーンG8」、強力タイプの「強力ドライブチェーン」をリニューアル発売、100周年モデルの4タイプ(標準・無給油・強力・耐環境)が揃いました。

RS[®]ローラチェーン「G8」

～摩耗寿命を1.2倍に向上～

チェーンの最終製造工程で錆の防止と耐久性向上のために塗油する防錆潤滑油を自社開発し、摩耗寿命1.2倍向上を実現。従来のお油に比べ、べた付きがなくお客様のチェーン交換時の取扱い性も向上。作業時間短縮なども含め、お客様のメンテナンスコスト削減に貢献します。



RSローラチェーン

強力ドライブチェーン

～最大許容張力20%、摩耗寿命を2倍に向上～

主に低速大荷重の用途向けに、標準タイプと同サイズながらも熱処理加工、材料の厚み、形状を変えることで強度を高めたチェーンです。今回モデルチェンジしたのは、強力チェーン(摩耗寿命2倍向上)、スーパーチェーン(最大許容張力5～10%向上)、スーパーHチェーン(最大許容張力20%向上)の3種類。チェーンのサイズダウン選定が可能となり、お客様設備の省スペース化とトータルコストダウンに貢献します。



強力ドライブチェーン

Topic

2

ツバキE&M 国内生産拠点再編

精機事業部門の中核を担う(株)ツバキE&Mでは、生産性・収益性向上をねらいに、国内生産拠点の再編を行いました。従来3工場(京都、兵庫、岡山)のうち作動機を生産する兵庫工場を本社工場(京都)に集約し、2工場(京都、岡山)体制となりました(8月移転完了)。再編による人材、設備面等のシナジー効果を生かし、いっそうの競争力強化に努めます。

Topic

3

「第107回定時株主総会」を開催

6月29日、ホテルニューオータニ大阪において、198名の株主様にご出席いただき第107回定時株主総会を開催しました。議長の挨拶の後、事業報告、質疑応答等を経て、4つの議案はすべて原案通り承認可決されました。株主総会終了後の懇談会では、当社役員と株主の皆様とのコミュニケーションを図りました。会場には展示コーナーを設けて商品进行展示。当社事業へのご理解を深めていただきました。



国際物流総合展2016

「ソータ(仕分機)市場のシェアトップ化」および「ソータをコアとした物流センター全体のエンジニア領域の拡大」を目的に、9月に開催された国内最大の物流・ロジスティクスに関する展示会「国際物流総合展2016」に出展しました。当社ブースでは、RFID*自動読み取りゲートを設置したリニソート®S-Eの実機展示に加え、多段構造で省スペース化を図れる新商品リニソート®S-Cも展示しました。会期中は約1,700社、約3,500名にご来場いただき、当社の物流向け事業の認知度向上に努めました。

*RFID:電波を用いてIDタグから非接触で情報を読み書きするシステム



WFC2016 第72回世界鑄造会議

5月に、ポートメッセなごやで開催された「WFC2016 第72回世界鑄造会議」に当社グループ会社の(株)椿本鑄工が出展しました。つばきブースでは、鑄肌のきれいな高品質・高性能の小型鑄物(ハイミニキャスト)をPR。会期中の展示会来場者は18,000人以上で、中国やインド等海外からの来訪者も多く、盛況のうちに終了しました。



QME(鉱業・エンジニアリング展)2016(オーストラリア)

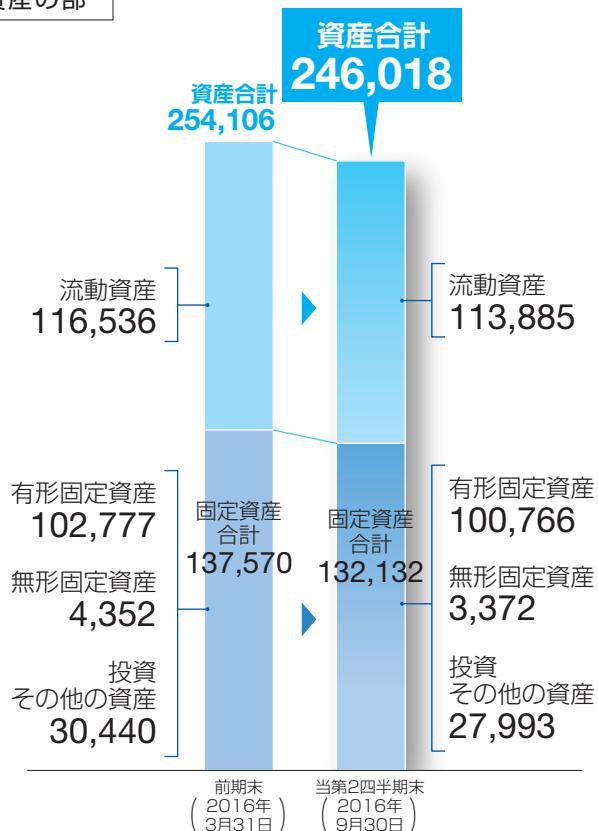
7月に、オーストラリア・クイーンズで開催された「QME(鉱業・エンジニアリング展)」に当社グループ会社のTsubaki Australia Pty. Limitedが出展し、大形コンベヤチェーンなどを展示。鉱業・重工業関連メーカーや販売店、OEM企業やエンジニアリング企業が出展する展示会で、市場関係者との関係強化を図りました。



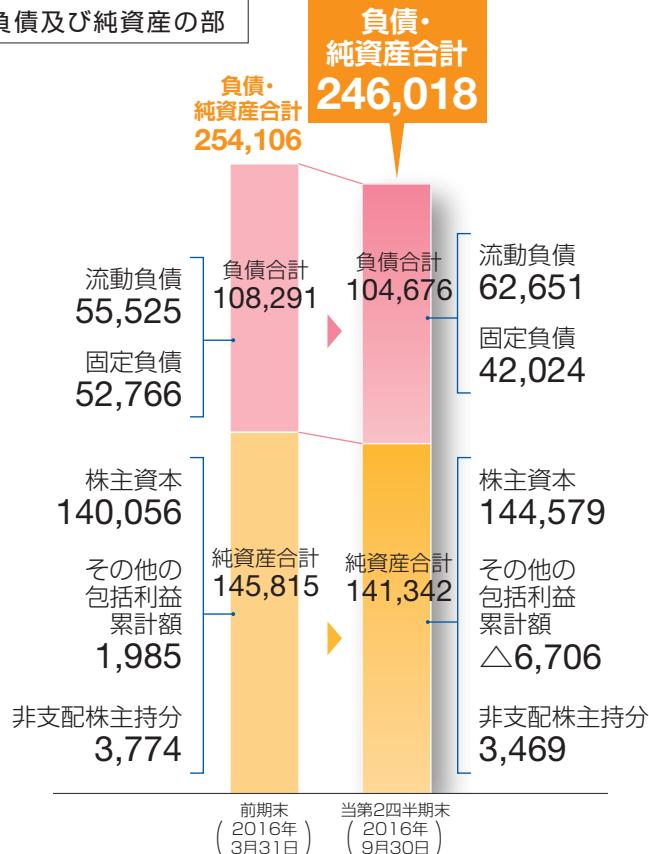
財務データ

○連結貸借対照表の概要 (百万円)

資産の部



負債及び純資産の部



POINT! 自己資本比率は56.0%に上昇

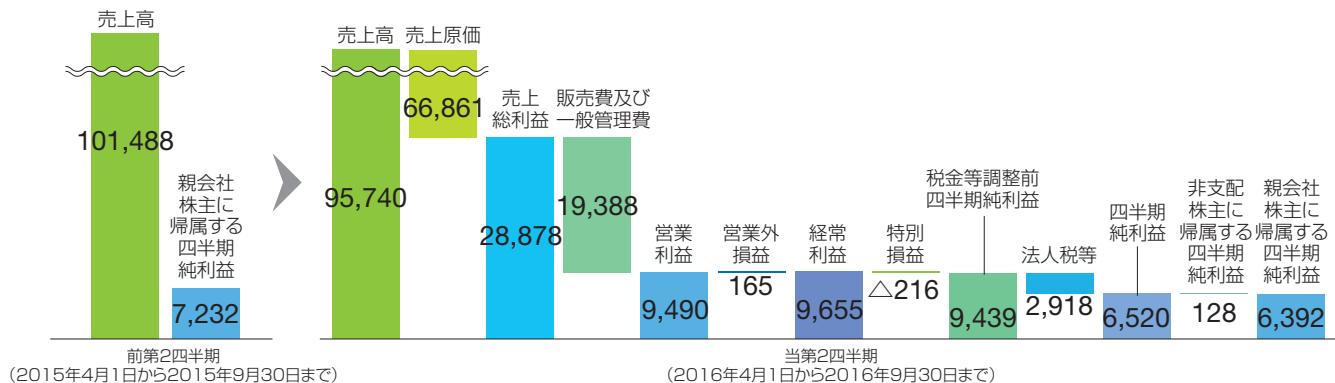
【資産】流動資産：26億51百万円減少
受取手形及び売掛金が30億51百万円減少したことなどによる。

固定資産：54億37百万円減少
保有株式の時価下落などにより投資その他の資産が24億47百万円減少したこと、減価償却などにより有形固定資産が20億11百万円減少したこと、のれんの償却などにより無形固定資産が9億79百万円減少したことなどによる。

【負債】負債：36億15百万円減少
支払手形及び買掛金が15億47百万円減少したこと、未払金等の減少によりその他の流動負債が6億77百万円減少したこと、繰延税金負債等の減少によりその他の固定負債が5億60百万円減少したこと、賞与引当金が4億98百万円減少したことなどによる。

【純資産】純資産：44億73百万円減少
利益剰余金が45億25百万円増加した一方で、為替の変動により為替換算調整勘定が81億66百万円減少したことなどによる。

○連結損益計算書の概要 (百万円)

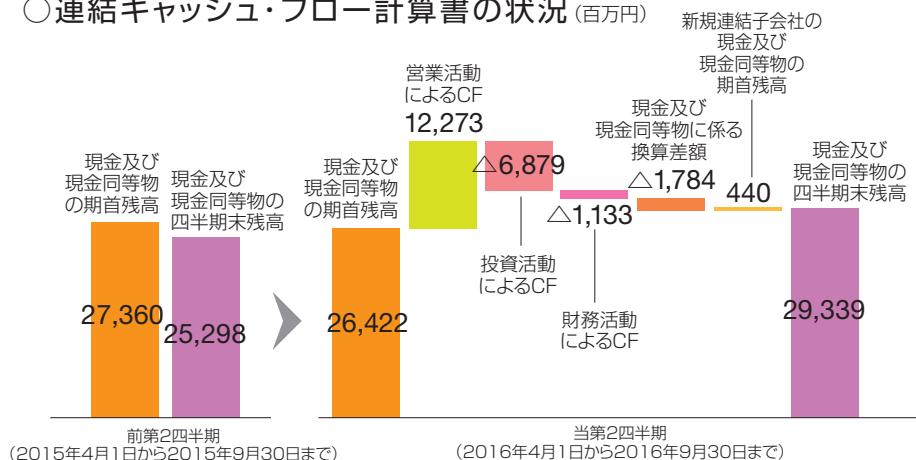


POINT! 利益は期初予想を上回るも、為替(円高)の影響などにより前年同期比で減収減益

【売上高】 事業環境は概ね堅調に推移したものの、円高に伴う為替換算の影響などにより、前年同期比57億48百万円の減収

【営業利益】 日本国内におけるマテハン事業の販売減少や中国における精機事業の販売減少、為替換算の影響などにより、前年同期比12億37百万円の減益

○連結キャッシュ・フロー計算書の状況 (百万円)



さらに詳しい財務データは、
当社ホームページの
「IRライブラリ」をご覧ください。

ツバキモト IR 検索



<http://www.tsubakimoto.jp/ir/library/>

企業・株式データ (2016年 9月30日現在)

会社概要

商号 株式会社椿本チエイン
 本店所在地 大阪市北区中之島3丁目3番3号
 設立年月日 1941年(昭和16年)1月31日
 資本金 17,076,679,589円
 工場 京田辺・埼玉・兵庫
 支社 東京・名古屋・大阪
 営業所 札幌・仙台・大宮・横浜・静岡・北陸・豊田・大阪北・
 広島・四国・九州
 関係会社 連結子会社：57社
 非連結子会社：9社
 関連会社：8社(うち持分法適用関連会社1社)
 従業員数 連結7,771名 単体2,204名
 (従業員数には契約社員、パート、アルバイトを含んでおります。)

役員

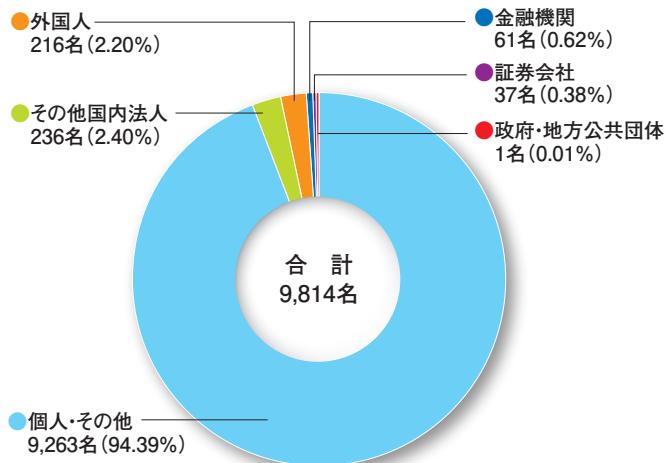
代表取締役会長兼CEO	長	勇
代表取締役社長兼COO	大原	靖
取締役専務執行役員	松浦	哲文
取締役専務執行役員	鈴木	恭
取締役専務執行役員	春名	秀昭
取締役常務執行役員	山本	哲也
取締役上席執行役員	川口	博正
取締役	矢嶋	英敏(※1)
取締役	阿部	修司(※1)
常勤監査役	富田	喜久男
常勤監査役	小林	均
監査役	渡邊	隆文(※2)
監査役	碩	省三(※2)
上席執行役員	古世	憲二
上席執行役員	山本	雅彦
執行役員	堺和	伸光
執行役員	藤井	幸博
執行役員	岡田	政寿
執行役員	熊倉	淳
執行役員	木村	隆利
執行役員	Kevin Richard Powers	
執行役員	揚田	利浩
執行役員	宮地	正樹

(※1) 取締役のうち矢嶋英敏氏および阿部修司氏は社外取締役です。

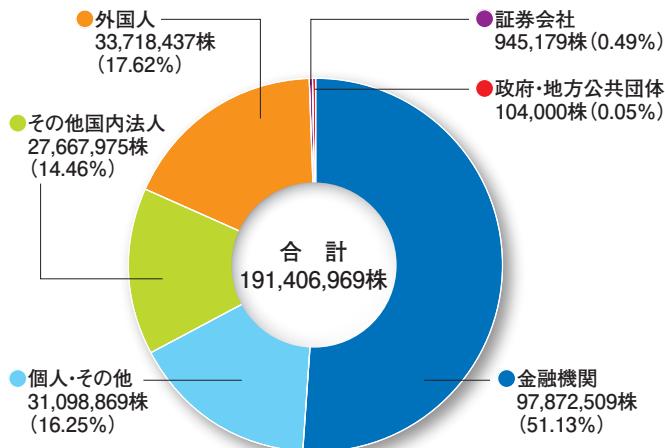
(※2) 監査役のうち渡邊隆文氏および碩 省三氏は社外監査役です。

株式の所有者別分布状況

株主数



所有株式数



株式の状況

発行可能株式総数	299,000,000株
発行済株式の総数	191,406,969株
株主数	9,814名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
太陽生命保険株式会社	17,798千株	9.51%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	12,585	6.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,163	5.96
日本生命保険相互会社	9,850	5.26
トヨタ自動車株式会社	7,722	4.12
株式会社三井住友銀行	7,034	3.76
橋本チエイン持株共栄会	6,241	3.33
橋本興業株式会社	5,294	2.82
全国共済農業協同組合連合会	4,766	2.54
三井住友信託銀行株式会社	4,245	2.26

- (注)1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式4,335,083株を保有しておりますが、上記大株主には含めておりません。
3. 持株比率は、自己株式4,335,083株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) ※取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	当社のホームページに掲載 (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載)

株主の皆様へのお知らせ

○配当金のお受け取り方法について

(配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様へ)

当社では、安全・確実に配当金をお受け取りいただくため、銀行等の口座への振込による配当金のお受け取りをお勧めしております。

現在、配当金領収証で配当金をお受け取りの株主様は、ぜひこの機会に口座振込による配当金のお受け取りをご検討いただきますようお願いいたします。

○住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株式預け入れ先の証券会社にお申し出ください。
なお、株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式に関しましては、三井住友信託銀行株式会社(特別口座の口座管理機関)にお申し出ください。

○株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式について

株券電子化の手続(証券会社への預け入れ)が済んでいない株式は、特別口座にて管理されています。特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、株式の売却の際は、あらかじめ証券会社の口座へ振り替えておく必要があります。詳細は、三井住友信託銀行株式会社(特別口座の口座管理機関)にお問い合わせください。

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

(連絡先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 **0120-782-031**(フリーダイヤル)

表紙の写真

実際のチェーンを積み上げて作った仮想都市のオブジェです。このオブジェを題材にした企業ポスター「CHAINS FORM THE WORLD」が「第37回2016日本BtoB広告賞」にて、最高賞の経済産業大臣賞を受賞。さらに日本産業広告賞、日経産業新聞広告賞でも入賞しました。

株主通信(事業のご報告)に関するお問い合わせ先

社長室 広報・IR課

06-6441-0054

株式会社 椿本チエイン

<http://www.tsubakimoto.jp/>

